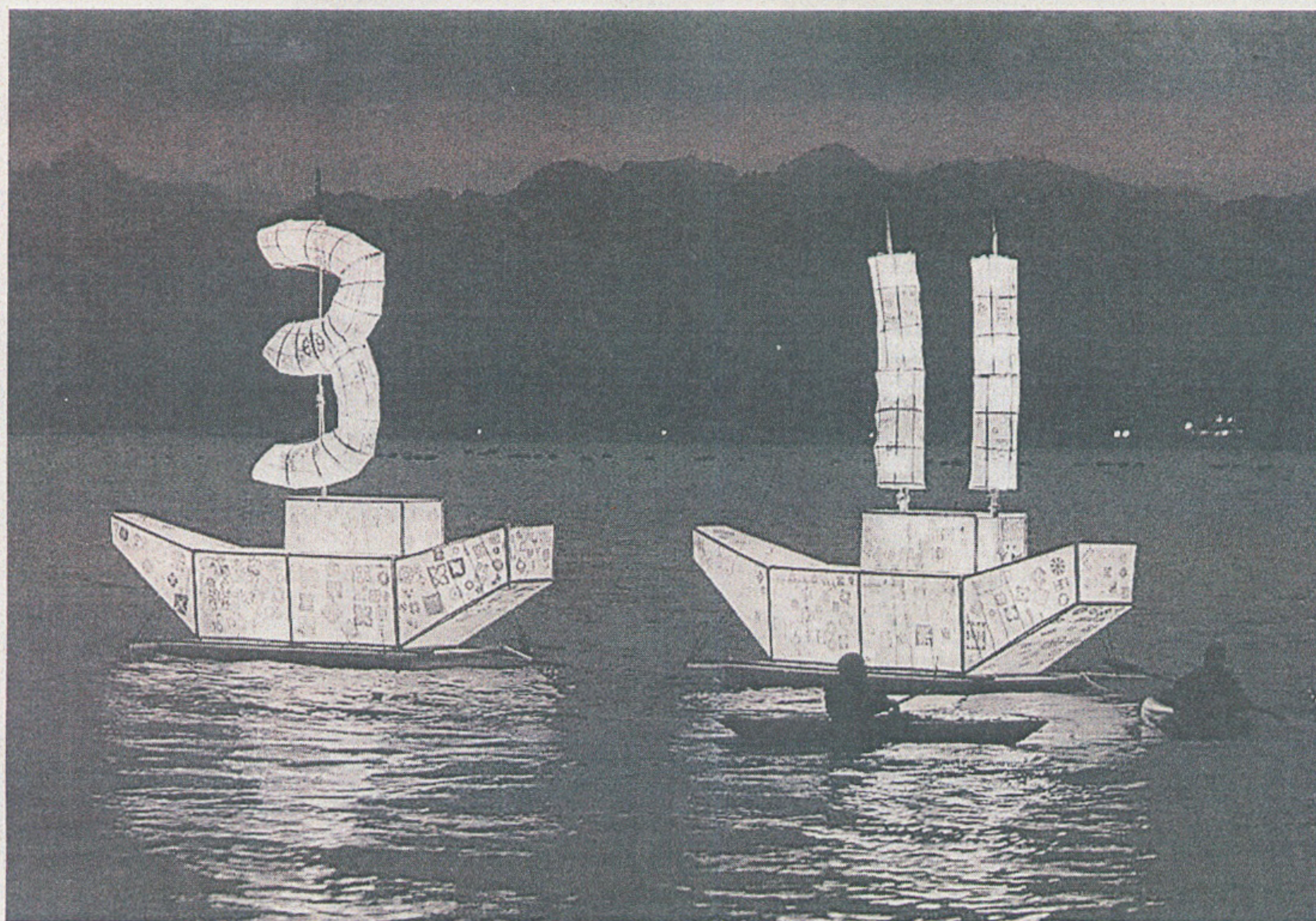


夕闇の海に くつきりと

大槌で「こよみのよぶね」

日比野さんプロジェクト

東日本大震災から1年 東京芸大教授の日比野克彦さん(53)が、数字の



夕闇の海に「3」「11」の文字が浮かび上がった

「3」「11」と小舟をかたどったあんどんを海に浮かべるアートプロジェクト「とうほくこよみのよぶね」を岩手県大槌町の大槌湾で行った。

高さ5尺、長さ6尺のあんどん2基に、大槌町

の約50人がメッセージを込めた切り絵を張った。あんどんは、漁船のえい航で蓬萊(ほうらい)島を周回。夕闇が深まるに、数字がくつきりと海上に表れ、参加者は手を合わせ犠牲者を悼んだ。震災で祖父と友人を失った女子中学生(13)は「亡くなった方が安らかに眠ってくれるような気がした。つらい1年だったけれど、みんなの分も頑張ろうと思う」と話した。

3.11忘れない 震災から1年

「こよみのよぶね」は日比野さんが故郷の岐阜市の長良川で毎年冬至に実施している。今回のあんどんも、岐阜市で制作した。24、25日に東京、

31日に釜石市でも「よぶね」が行われた後、岐阜に戻る。日比野さんは「舟は気持ちや物を運ぶ器。海を通じて日本中がつながっているという思いを届けたい」と語った。

大津波に備え 初の避難訓練

むつ

むつ市で11日、大津波の襲来に備えた避難訓練が初めて実施された。住民1550人が市職員や



訓練で避難所に到着した住民ら

消防団員の誘導を受け、自宅から避難所までのルートを確認した。訓練は、青森県東方沖

でマグニチュード7.0の地震が発生して電線、太平洋波警報、津波警報が発令の想定。津軽海峡の住民らは、どこで避難指示内22カ所に避難所へ徒歩でむつ市大谷寿子さんが来たときに難でできる道た」と話した。

被災の松で慰霊塔

陸前高田
長砂地区

東日本大震災で甚大な被害を受けた陸前高田市高田町の長砂地区に、津波で倒された名勝・高田松原の松を使用した慰霊塔が建立され、震災から1年の11日、法要が営まれた。

11日は住民が集まり、慰霊塔に手を合わせて犠牲者の冥福を祈った。公民館長だった千田勝郎さん(71)は「助け合った日々が、あの日を境に一変した。犠牲になった一人一人の面影を忘れることなく、精いっぱい生きていく」と誓った。

慰霊塔の場所は、高田

が、被災しながらも見つけた地点でもある。修復は難しく、こし新たな山車を製作するとう。

慰霊塔を建てる一人、福(42)は「七た住民が集きたい」と

地区は大半の家が津波で流され、住民たちは市内外で散り散りに暮らす。慰霊塔は「手を合わせる場所が欲しい」と、住民有志らが公民館跡地に建立した。

高田松原の松を使った慰霊塔に手を合わせ、犠牲者の冥福を祈る人たちが

